

岐阜県内建設発生土処理対策委員会(概要)

(ダム本体工事で発生する建設発生土の対応内容を確認することを目的に令和3年3月29日に開催)

新丸山ダム工事事務所で実施している「新丸山ダム建設事業」におけるダム本体工事で発生する建設発生土の対応内容を確認することを目的に、岐阜県内建設発生土処理対策委員会を令和3年3月29日に開催しました。

○委員会名簿(※五十音順)

所 属	氏 名
岐阜大学 工学部	神谷 浩二 教授
岐阜大学 工学部	小嶋 智 教授
岐阜大学	佐藤 健 名誉教授
岐阜大学 工学部	篠田 成郎 教授
一般財団法人 自然学総合研究所	寺尾 宏 主任研究員
岐阜医療科学大学	永瀬 久光 教授

○委員会決定事項

<掘削土の評価について>

- ダムサイト、原石山のそれぞれの事前調査結果をもとに、自然由来重金属等を含有しており対策が必要な地質を確認しました。(ダムサイト:珪質粘土岩、瑞浪層群、原石山:砂岩(鉍脈鉍染帯))

<水質モニタリングについて>

- 水質モニタリング箇所、試験項目、基準値及び試験頻度を確認しました。

<要対策土処理場について>

- 要対策土以外については、盛土時の締固め及び表面に覆土を実施するとともに盛土場所を区分する方針としました。

<要対策土の封じ込め方法について>

- 遮水工(二重遮水シート)による封じ込めを選択しました。
- 盛土周囲に側溝等を設け、雨水の浸透を抑制するとともにモニタリング体制を強化する方針としました。



委員会の様子